

# 実践内容の概要

【テーマ】体を動かすあそび・発展的なあそび

領域：健康

カテゴリー：危険回避・体を動かすあそび・発展的なあそび

課題：外で体を十分に動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ中で、危険を回避する力などを身につけられるように環境を作っていく

これまでの環境



体を動かす遊びや場所の環境はあるが、走り回ったり外を眺めたりして遊びの発展が見られなかった。また、体幹が弱く転倒した際にけがに繋がることもあった。

今回、用意した環境



様々な運動用具などを用意し、身体全身を動かせる遊びを導入していった。

子どもたちの姿が  
どうなったか



継続することで体幹が強くなり、転んだ際に手をつき大きな怪我に繋がらないことが期待される。また、友だち同士での遊びの発展が見られるようになってきた。

# 今回、用意した環境

【今回取り組んだ環境についてご記入ください】

- ・遊具の数が少なかったため、遊具の種類を増やし、両足ジャンプ、くぐる、ぶら下る、転がる、橋を渡るなど、より全身を使って遊べるような遊具を選じた。
- ・保育室内でも体を動かせるようなコーナー作りや集団遊びを行った。



# 環境づくりで配慮・工夫した点

【取り組むとき、どのような工夫をしましたか？】

- ・室内でも子どもたちの興味に合わせて好きな運動が出来るようにした。その際、同じ動きでも難易度を変える等、興味や発達に合わせて子ども自身が選択出来るようにした。
- ・より広い空間（ホール）を使って鉄棒や跳び箱なども活用し、運動の選択肢の幅を広げた。



# 子どもの様子の変化

【子どもたちの様子はどう変化しましたか？】

- ・平均台を渡る際体が横に傾いた際には両手を広げてバランスをとろうとする姿が見られた。
- ・高い所から降りる際、片足ずつ地面に降りている子が多かったが、ジャンプをして両足で着地をすることが出来るようになってきた。また、着地の際は転びそうになると手をついて回避しようとする力がついてきた。
- ・体の使い方が分かってきたことで、重心の傾きに対し力を入れて転倒しないようにバランスをとる姿が増え、転倒による怪我が減ってきた。
- ・友だちが遊んでいる姿を見ることで、挑戦してみようとする心が育ってきた。



# 課題と次にやってみたいこと

## 【取り組んでみての課題】

- ・環境を設定していくことで、子どもたちは積極的に身体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、活動を通して運動遊びをやめたい子、続けたい子など様々な姿が見られていたので、運動遊びと活動を制限するのではなく、保育室内に運動が出来る環境を常設し活動を選択できるような環境も必要ではないかと感じた。
- ・子どもたちの発達に応じて、難易度を変更していったが、時には発達に適さない難易度に挑戦しようとする場面が見られた。挑戦したい気持ちをしっかり受け止め、自身の力で挑戦できるものへ促し、達成感を味わえるようにした。日々子どもたちの発達を職員間で共有していくことが大切であると感じた。

## 【次にやってみたいこと】

- ・保育室内に運動遊びコーナーを常設して、子どもたちが「やりたい」といった時には、コーナーを開けるような環境を設定していきたい。
- ・触覚からのアプローチができる遊具を取り入れ、実践していきたい。